

# 平成30年度事業実績について

## I 事業の目的

安全で商品性の高い農産物の安定供給と生産性の向上を図るため、関係機関、団体、農薬メーカー等と密接な連携を図りながら、農薬の安全・適正使用の推進を始めとして、効率的な病虫害防除の推進、新規登録農薬の普及性の実証、農業航空防除及びGAPの推進等の各種事業に取り組んだ。

## II 実施事業の概要

### 1 農薬の安全・適正使用及び効率的な防除の推進(啓発事業)

病虫害防除に関わる関係法令を遵守するとともに、植物防疫に関する情勢の変化に的確に対応し、農産物への農薬残留事故の回避及び農薬による環境汚染の防止を図り、農薬の安全で適正な使用による安定した農業生産及び生産環境を維持することを目的として、防除業者、農薬販売業者及びJA・県等の指導員などを対象にした各種研修会を開催するなど啓発活動を実施した。特に、消費者の食の安全・安心への関心が高まる中、人の健康へのリスクと環境負荷への軽減が求められており、「宮崎方式ICM技術」確立と普及に関する啓発活動を積極的に普及を図った。

また、病虫害発生が多様化と難防除病虫害の増加に対応した効果的な防除と安全な農薬使用を推進するため、発生予察情報の迅速で適切な提供、最新の防除技術及び農薬安全使用などに関する資料を作成し、的確な提供を行った。

#### 主な実施項目

##### (1) 農薬管理指導士更新研修会の開催

対象者：農薬管理指導士、農産物直売所安全・安心推進員

研修会の内容：

① 農薬の安全使用と危被害防止対策

(一般社団法人宮崎県植物防疫協会)

② 病虫害と防除対策の基礎(県農業経営支援課)

③ 毒物及び劇物取締法(県中央、都城、延岡保健所)

表1 開催概要

開催月日	開催場所	参加者数
12月17日	延岡市(延岡市中小企業振興センター)	26名
12月19日	宮崎市(宮崎県総合農業試験場)	167名
12月20日	都城市(都城市高城生涯学習センター)	78名
合	計	271名

(2) 宮崎県農薬管理指導士新規養成研修の開催

開催日：平成31年1月18日

場 所：宮崎市 県総合農業試験場 研修棟

対象者：農薬取扱者（JA、農薬販売店等）、防除業者、ゴルフ場職員等  
119名が受講・受験し、115名が認定された。

研修会の内容：

- ① 植物防疫一般（植物防疫・農薬行政）（県農業連携推進課）
- ② 関連法令（農薬取締法、毒物及び劇物取締法）  
（県農業連携推進課・医療薬務課）
- ③ 病虫害、雑草防除等（県総合農試作物部）
- ④ 農薬管理指導士の任務（県農業連携推進課）
- ⑤ 農薬一般（農薬の種類、特性等）（県総合農試生物環境部）
- ⑥ 農薬安全性評価、各種基準（県総合農試病虫害防除・肥料検査課）
- ⑦ 農薬の安全使用、危被害防止対策（県農業経営支援課）

(3) 植物防疫研修会の開催

(第1回)

開催日：平成30年11月14日

場 所：宮崎県トラック協会総合研修館

対象者：市町村、JA、経済連、農薬メーカー、農薬卸組合、農業共済連  
種苗協会宮崎県支部、農薬小売商組合、県 合計72名

研修会の内容：

- ① 展着剤を上手に使うための基礎と応用  
講師：丸和バイオケミカル株式会社 川島 和夫
- ② ドリフト低減ノズル等の活用と実演  
講師：株式会社丸山製作所 松元 実  
ヤマホ工業株式会社 玉木 寛之

(第2回)

開催日：平成31年3月6日

場 所：新富町文化会館

対象者：市町村、JA、経済連、農薬メーカー、農薬卸組合、農業共済連  
種苗協会宮崎県支部、農薬小売商組合、県 合計84名

研修会の内容：

- ① 稲こうじ病の発生生態と防除対策について  
県総合農試生物環境部 技師 下大園佳由
- ② サツマイモ基腐病菌の性質と対策  
県総合農試生物環境部 主任研究員 臼井真奈美
- ③ ダイコンサルハムシ発生生態と有効薬剤の探索  
県総合農試生物環境部 主任技師 竹原 剛史
- ④ ラナンキュラスの球根腐敗対策  
県総合農試生物環境部 特別研究員兼副部長 黒木 修一

- ⑤ マンゴーにおけるミナミアオカメムシ被害とその対策  
 県総合農試生物環境部 専門技師 阿万 暢彦
- ⑥ 今年の各種病害虫における薬剤抵抗性の実態  
 県総合農試病害虫防除・肥料検査課 副主幹 松浦 明
- ⑦ 国内で確認された新奇病害虫 ～各県の報告から～  
 県総合農試病害虫防除・肥料検査課 主査 黒木 匠子

(4) 病害虫発生予察情報の印刷・配付  
 ・31回(2,530部)

予報	12回
注意報	6回
特殊報	4回
防除情報	9回

(5) 農薬適正・安全対策資料及び防除対策資料の作成・配付

- ① 農薬適正・安全対策資料 500部  
 (農薬管理指導士研修会資料、植物防疫研修会資料)
- ② 農薬安全・適正使用啓発資料  
 ・農薬の安全使用とはちみつの安定生産のために ポスター 100部  
 フラジ 1,000部  
 ・雑草イネ対策のための除草剤の効率的利用と耕種的防除 2,000部  
 ・水稻除草剤の上手な使い方 10,000部
- ③ 2019年版病害虫・雑草防除等指導指針 800部
- ④ 農業航空防除危被害防止・安全対策資料 50部
- ⑤ 農薬展示ほ成績書 100部

## 2 農薬展示ほ設置事業

病害虫・雑草防除等指導指針や地域の防除暦策定の資料とするため、農林振興局・西臼杵支庁(農業改良普及センター)等関係機関の協力を得て、新たに登録あるいは適用が拡大された農薬を中心に展示ほを設置し、防除効果等の検討を行った。

表2 農薬展示ほ設置状況 ( )は前年度

	部 門	農 薬 数	展 示 箇 所 数
農薬	水 稻	35 ( 38)	55 ( 60)
	大 豆	0 ( 1)	0 ( 2)
	茶	1 ( 1)	2 ( 1)
	野 菜	40 ( 28)	72 ( 55)
	花 き	9 ( 3)	18 ( 6)
	果 樹	6 ( 6)	16 ( 17)
	飼 料 作 物	1 ( 2)	2 ( 5)
資材	飼 料 イ ネ	12 ( 8)	21 ( 17)
	野 菜	0 ( 2)	0 ( 2)
	合 計	104 ( 89)	186 (165)



場 所：小林市須木庁舎

参加者：実施団体、航空会社、農薬メーカー、小林市、他関係機関

内 容：航空防除に伴う危被害防止対策について

航空機運航上の安全対策について

散布農薬の特性と安全対策について

### (3) 平成30年度農林水産航空事業有人ヘリコプター推進事業

有人ヘリを利用した事業を安全かつ効率的に実施するため、一般社団法人農林水産航空協会から助成を受け、実施組織の体制整備及び安全対策の普及啓発を行った。

交付額：JAこばやし（水稻） 40,000円

須木栗振興協議会 10,000円

内 容：危被害未然防止等会議の開催、安全対策広報指導活動、  
地区別座談会での資料配付 等

## 5 農業航空事故対策補てん事業

有人ヘリコプターによる航空防除実施によって発生した事故に係る損害の補てんを行う事業であるが、危被害防止等の安全対策には細心の注意を払い、適正な管理のもとで航空防除が実施された結果、事故の発生はなかった。

・補てん金支払実績 なし

## 6 GAP推進事業

残留農薬違反などの農薬事故を防止し、農業生産活動を安全かつ安定的に実施するために、農薬の適正使用や農薬散布機の適正管理等について、県と連携して国際水準に対応した指導員・審査員の育成を進めるとともに、県版GAPである「ひなたGAP」の普及啓蒙を図った。

主な実施事項

### 1) 研修実績

項 目	回数	参加人数
JGAP指導員養成研修	4	123
ひなたGAP指導員・審査員基礎・現地研修	4	122
ひなたGAP指導農家現地研修（前期・後期）	4	前114・後108
ひなたGAP審査員研修	2	10
国際水準GAP研修	1	17
JGAP産地リーダー研修	2	21
指導員フォローアップ研修	1	14
審査員フォローアップ研修	1	10

### 2) ひなたGAP現地審査

宮崎市、都城市、日南市、西都市、延岡市、高鍋町、新富町、高原町の農業者を対象に16カ所で実施

### 3) ひなたGAP維持審査

延岡市、日向市の農業者を対象に実施